平成２６年度 岡山県農林水産総合センター「農業研究所」試験研究課題評価票

＜事前評価＞

総合評価凡例　５：優先的に実施することが適当　　４：実施することが適当
３：計画等を改善して実施することが適当　　２：実施の必要性が低い
１：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番　号	26-事前-1						
課題名	「シャインマスカット」の秋冬期出荷技術の確立						
課題の概　要	「シャインマスカット」の他県をリードする高品質果実の秋冬期安定出荷を図るため、年末まで良好な果実品質を樹上で保持できる技術を開発する。						
評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	4人	2人	0人	0人	0人	4．7
	有効性	2人	4人	0人	0人	0人	4．3
	効率性・妥当性	2人	3人	1人	0人	0人	4．2
	総合評価	3人	3人	0人	0人	0人	4．5
助言・指摘事項等	1「シャインマスカット」は全国的に積極的に導入が進められているが、本技術開発によって岡山県産「シャインマスカット」の他産地との差別化によるブランド化が進み、岡山県のブドウ産業の発展に資する。 2本技術開発は社会のニーズに対応しており、農家経営にも大きく貢献することから、早急な確立を期待する。また、農研のこれまでの知見を基に試験を実施できることから達成可能性は高い。 3果実を樹上で保持する技術については、科学的な基礎データやコスト・労働時間との関係を客観的に明らかにする必要がある。また、翌年の生育や収量・品質への影響についても検討する必要がある。 4長期出荷体制の確立により県産ブドウの評価が更に高まると期待される。アジアへの輸出ニーズに対応するため、旧正月までの出荷延長の検討を望む。						

平成２６年度 岡山県農林水産総合センター「農業研究所」試験研究課題評価票

＜中間評価＞

総合評価凡例　５：優先的に継続することが適当　　４：継続することが適当
３：計画変更して継続することが適当　２：継続の必要性が低い
１：中止すべきである

番　号	26-中間-1						
課題名	きぬむすめ、にこまるの高品質生産技術の確立と温暖化対応品種の選定						
課題の概　要	夏季高温による米の品質低下対策として、高温登熟耐性品種である「きぬむすめ」、「にこまる」の高品質・良食味米生産技術を確立するとともに、県内産地に適した高温登熟耐性品種を選定する。						
評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	1人	1人	4人	0人	0人	3．5
	〃（阻害要因）	1人	1人	4人	0人	0人	3．5
	必要性	3人	3人	0人	0人	0人	4．5
	有効性	3人	3人	0人	0人	0人	4．5
	効率性・妥当性	1人	3人	2人	0人	0人	3．8
	総合評価	2人	4人	0人	0人	0人	4．3
助言・指摘事項等	1「きぬむすめ」は奨励品種への採用が検討されている中、適地判定は重要な課題である。また、温暖化対応品種の選定についても継続的な実施が必要である。 2高温による米の品質低下は生産者の所得減につながることから、本県の農業振興のためにも、引き続き本研究を継続することが妥当である。 3現在、全国的に食味評価による米のブランド化が進められており、本県の生産振興のためには、これら2品種だけでなく岡山県独自の品種について研究が望ましい。						

番　号	26-中間-2						
課題名	水田作における緑肥を活用した低投入型施肥技術の確立						
課題の概　要	環境保全効果が期待できる緑肥について、肥効特性を明らかにするとともに、水稲・大豆作における利用技術を確立する。						
評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	0人	1人	5人	0人	0人	3．2
	〃（阻害要因）	0人	1人	5人	0人	0人	3．2
	必要性	0人	5人	1人	0人	0人	3．8
	有効性	0人	5人	1人	0人	0人	3．8
	効率性・妥当性	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	総合評価	0人	5人	1人	0人	0人	3．8
助言・指摘事項等	1水田の緑肥活用技術の開発は今後の利活用が期待される。成果を得るのに長期間を要する研究課題であり、地道な研究の継続が重要である。 2緑肥の効率的な自然再生条件（土壌、時期、気候等）についても解明する必要がある。 3県下全域での活用が見込まれることから、確立された技術は関係団体に積極的にＰＲするとともに、農家が導入しやすいようなマニュアルの作成を望む。						

＜中間評価＞

総合評価凡例　５：優先的に継続することが適当　　４：継続することが適当
３：計画変更して継続することが適当　２：継続の必要性が低い
１：中止すべきである

番　号	26-中間-3						
課題名	高冷地域に適した果樹・野菜・花品種の育成・選定と栽培技術の確立						
課題の概　要	高冷地域に適した野菜（ダイコン、ニンニク、白ネギ、キャベツ、リーキ）、果樹（ブドウ等）の品種選定を行うとともに、安定栽培技術を開発する。						
評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	〃（阻害要因）	0人	2人	4人	0人	0人	3．3
	必要性	0人	4人	2人	0人	0人	3．7
	有効性	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	効率性・妥当性	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	総合評価	0人	5人	1人	0人	0人	3．8
助言・指摘事項等	1少ない人員の中で、多様な研究に効率的に取り組んでいることを評価する。農家の安定生産と所得向上を目指し、栽培技術の早期確立に期待したい。 2高冷地域の条件に合致する品種選定と栽培技術の確立は、農家にとって重要な情報となることから、継続的な研究が必要である。 3ブドウに関する中間成績は、定植間もない若齢樹で得られた結果であり、特に「シャインマスカット」については高冷地における適地判定を慎重に行って頂きたい。						

番　号	26-中間-4						
課題名	夏秋雨除けトマト栽培における高温・強日射に起因する裂果対策						
課題の概　要	夏秋トマトの高温・強日射に起因する『放射状裂果』の総合的な抑制技術を開発する						
評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	0人	4人	2人	0人	0人	3．7
	〃（阻害要因）	0人	4人	2人	0人	0人	3．7
	必要性	1人	5人	0人	0人	0人	4．2
	有効性	1人	5人	0人	0人	0人	4．2
	効率性・妥当性	1人	4人	1人	0人	0人	4．0
	総合評価	1人	5人	0人	0人	0人	4．2
助言・指摘事項等	1岡山県の夏秋雨除けトマト栽培は後継者が増えており、高温・強日射に起因する裂果対策は重要課題として継続的な研究が必要である。 2これまでの試験において、遮光処理とホルモン剤に関する知見が明らかになったことを評価する。今後は、ホルモン剤の費用対効果について検討するとともに、遮光装置の低コスト化など、より導入しやすい技術開発が望まれる。 3遮光処理に加えて、効果の高いホルモン剤の栽培現場への速やかな導入が重要であり、農業団体等とも連携しながら技術を確立することが望ましい。						

平成２６年度 岡山県農林水産総合センター「農業研究所」試験研究課題評価票

＜事後評価＞

総合評価凡例　５：著しい成果が得られた　４：十分な成果が得られた
３：一定の成果が得られた　２：見込んだ成果を下回った
１：成果が得られなかった

番　号	26-事後-1
課題名	「おかやま黒まめ」の高品質安定生産技術の確立
課題の概　要	子実生産における被害粒の発生要因を解明するとともに、枝豆の茶しみ症対策として7月播種栽培技術を確立する。また、茶しみ症抵抗性品種を育成する。

評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	2人	4人	0人	0人	3．3
	有効性(効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	有効性(目的以外の成果)	1人	5人	0人	0人	0人	4．2
	効率性・妥当性(費用対効果)	2人	0人	4人	0人	0人	3．7
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3．3
	成果の活用・発展性	1人	2人	3人	0人	0人	3．7
	総合評価	1人	2人	3人	0人	0人	3．7

助言・指摘事項等	
	1黒大豆生産の安定化に寄与する知見が得られている。本技術の導入によって、さらに栽培面積が増え、岡山黒大豆のブランド化が進むことを期待したい。 2本技術確立は、生産性の向上と農家の所得向上につながり、評価できる。 3セルトレイ育苗におけるより省力的な播種方法についても検討する必要がある。

番　号	26-事後-2
課題名	昼加温とCO2施用の併用による促成ナスの増収・品質向上技術の確立
課題の概　要	本県ブランド野菜である促成ナスについて、販売価格の高い冬期に品質低下を伴うことなく生産量を増やす技術を開発する。

評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	3人	2人	0人	0人	3．8
	有効性(効果)	2人	1人	3人	0人	0人	3．8
	有効性(目的以外の成果)	0人	4人	2人	0人	0人	3．7
	効率性・妥当性(費用対効果)	3人	2人	1人	0人	0人	4．3
	効率性・妥当性(計画)	1人	3人	2人	0人	0人	3．8
	成果の活用・発展性	3人	2人	1人	0人	0人	4．3
	総合評価	3人	2人	1人	0人	0人	4．3

助言・指摘事項等	
	1研究の目標が達成されており、費用対効果も適切である。農家に期待されている技術であり、次年度から取り組む農家も増えると聞いている。特に、経費増を収量アップ、秀品率アップで補える点は素晴らしく貢献度は高い。 2研究成果を広く公表して山陽新聞や日本農業新聞等々にも掲載されており、現地に導入されて、農家の所得の向上に寄与していることは評価できる。 3今後は、成果の発展可能性に示されている、一層の低コスト化技術の開発に期待したい。

＜事後評価＞

総合評価凡例　５：著しい成果が得られた　４：十分な成果が得られた
３：一定の成果が得られた　２：見込んだ成果を下回った
１：成果が得られなかった

番　号	26-事後-3						
課題名	イチゴ優良導入品種の栽培技術の確立						
課題の概　要	本県に導入されつつある数種のイチゴ新品種について、本県に適した品種を選定して栽培技術を確立し、県産イチゴ品種の集約化・ブランド化を図る。						
評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	1人	5人	0人	0人	3．2
	有効性(効果)	0人	2人	3人	1人	0人	3．2
	有効性(目的以外の成果)	0人	2人	4人	0人	0人	3．3
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	2人	3人	1人	0人	3．2
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	3人	1人	0人	3．2
	成果の活用・発展性	1人	2人	2人	1人	0人	3．5
	総合評価	0人	4人	1人	1人	0人	3．5
助言・指摘事項等	1本課題で選定した品種の導入により、県内イチゴ産地のブランド化が進むことを期待する。 2「ゆめのか」については糖度をもっと高める栽培技術の確立、「おいCベリー」については収穫期の中休み改善技術の確立が必要である。 3岡山式高設栽培に適した品種選定について、さらに対照品種を増やして継続する必要がある。 4成果の発展可能性に示されているとおり、今後、これらの品種が育種素材として活用され、県独自品種が育成されることを期待する。						

番　号	26-事後-4						
課題名	中山間地域に適した野菜新品種の育成・選定と品種特性を発揮させる栽培技術確立						
課題の概　要	県内の準高冷地(標高約400m以上)でも安定生産できる県独自の四季成り性優良品種を育成するとともに、その安定生産技術を確立する。						
評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	有効性(効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	有効性(目的以外の成果)	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3．3
	成果の活用・発展性	0人	4人	2人	0人	0人	3．7
	総合評価	0人	4人	2人	0人	0人	3．7
助言・指摘事項等	1四季成り性イチゴの新品種の導入が高冷地農業の活性化につながるとともに、将来的には県内イチゴのブランド化が進むことを期待する。 2本品種は、収量が多く苗代が安いなどの長所を活かして、積極的な普及推進に努めて頂きたい。 3夏場の国産イチゴの需要は高いが、必要な時期に必要なサイズを安定して供給することが高単価に結びつく。このため、本新品種については、流通上の課題等の把握が今後重要となる。						

＜事後評価＞

総合評価凡例　５：著しい成果が得られた　　４：十分な成果が得られた
３：一定の成果が得られた　　２：見込んだ成果を下回った
１：成果が得られなかった

番　号	26-事後-5						
課題名	光環境の高度制御による切り花花きの低コスト栽培技術の確立						
課題の概　要	省エネと品質向上効果が期待できる日没後短時間照明・加温処理や、消費電力量の少ない光源を利用した開花調節による低コスト栽培技術を確立する。						
評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	2人	4人	0人	0人	3．3
	有効性(効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	有効性(目的以外の成果)	0人	4人	2人	0人	0人	3．7
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	効率性・妥当性(計画)	0人	1人	5人	0人	0人	3．2
	成果の活用・発展性	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
	総合評価	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
助言・指摘事項等	1ブプレウラムに関する技術開発については、栽培管理方法の改善と、新規栽培を開始する農家のコスト低減に活用することができ、評価できる。 2いずれの試験も比較的明瞭な結果が得られており、今後の研究発展性が期待できる。 3蛍光灯利用や育苗時の電照による生育調整技術については、今後の普及と発展が期待できる。なお、育苗時電照については終夜照明のコストについても試算する必要がある。						

番　号	26-事後-6						
課題名	集落営農の維持・発展にむけた支援方策の解明						
課題の概　要	集落営農の実態調査から課題を整理するとともに県外事例等を調査し、集落営農の持続的発展に向けた支援方策を明らかにする。						
評価結果	区　分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	2人	4人	0人	0人	3．3
	有効性(効果)	0人	1人	5人	0人	0人	3．2
	有効性(目的以外の成果)	0人	2人	4人	0人	0人	3．3
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	1人	4人	1人	0人	3．0
	効率性・妥当性(計画)	0人	1人	5人	0人	0人	3．2
	成果の活用・発展性	0人	3人	1人	2人	0人	3．2
	総合評価	0人	3人	3人	0人	0人	3．5
助言・指摘事項等	1集落営農の維持発展に向けた課題は把握できている。 2本県における集落営農の発展に向けた支援策について、もう少し具体的に整理する必要がある。 3現場の普及員や市町村の担当職員と連携し、本研究成果が県内集落営農の組織化に貢献することを期待する。						